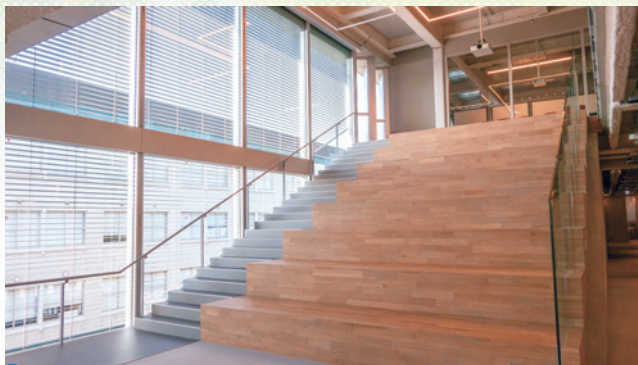


2022年1月に竣工した本学世田谷キャンパス「新7号館」は、創立100周年に向けたキャンパス再整備事業の一貫で建設されました。これまで都市生活学部と人間科学部の学生たちは、現在ここへまとる学びの場を移しています。建物は鉄骨造地上4階建て。透明感溢れるガラス張りのファサードや、壁で仕切らない繋がりのある間取りは、旧来の大学校舎とは大きく趣が異なります。新7号館は、どんな考えの基に設計されたのでしょうか？ 設計・総括責任の建築都市デザイン学部 建築学科 堀場 弘教授に伺いながら、建物の構造や隠された見所に迫ります。

Sky Stair(3-4F)

憩いの場にもプレゼンテーションの場にもなるホットスポット



西側の大階段は、セミナー室やゼミ室などがある3階と、研究室などが並ぶ4階を繋ぐ主要動線。天気のいい日には遠く多摩の山並みを一望できる絶景スポットでもあり、「スカイステア」の愛称で親しまれています。昇降用の階段とは別に、腰掛けるのにちょうどいい高さの階段が並んでいるのがスカイステアの特徴。あるときは休憩や団らんの場に、またあるときは壁面に映像を投影してプレゼンテーションに用いられるなど、さまざまな用途に活用されています。



15mの高さ規制をクリアするべく、天井はあえて剥き出し

新7号館の天井の大部分は、剥き出しになっています。これは閉塞感を与えずに建物の高さを抑えるための工夫。この区域は都が定めた風致地区であり、景観維持のための建物の高さ規制をクリアする必要があります。空調ダクトが剥き出しなのも空間を広々使うため。コストを抑えられる、メンテナンスしやすいというメリットもあります。



機能と見映えを考慮し、天井の梁にはオフホワイトのセラミック耐火被覆を採用しています

銀色に輝く空調ダクトも剥き出し

西側の外観は全面をガラスで覆わず、西日を遮るようギザギザの壁を併設。ギザギザのガラス面は北向きで、開閉により自然換気ができるようになっています。



ガラス面を開けて通気させることも可能

4階の階段脇には換気窓を設置。温められた空気が上方へ向かう性質を利用し、ここから空気を外に抜くことで、建物全体を効率よく換気することができます。



研究室(4F)

学生にオープンな研究室

都市生活学部や人間科学部の研究室が3方に並ぶ4階。学生と教授のコミュニケーションが取りやすいよう、研究室もガラス張りです。



研究室の間のちょっとしたスペースに置かれたテーブル。勉強にも休憩にも使える場が新7号館の各所で見られます。



学生インタビュー

研究室はお気に入りの場所。今日もここでご飯を食べました。私たちの研究室ではインテリアプランニングを研究しています。アサリの貝殻とビー玉で作ったシャンデリアは、私たちが一番最初に作った思い出の制作物です。



都市生活学部 都市生活学科 3年
(左)佐々木愛祐美さん (右)山口愛加さん

学生が製作したシャンデリア



研究室(4F)

……外観 地域と一体の大学を目指し、塀や柵は設けず



建築都市デザイン学部 建築学科

堀場 弘 教授

設計に当たっては、学生たちが好きな場所で学び活発に交流できるよう、閉じられた部屋をできるだけ少なくしました。採光と省エネ性能も追求し、外に面するガラスには、熱負荷が抑えられるLow-Eペアガラスを用いています。併せて、西日を遮るようギザギザ壁を設けたり、電動ブラインドを設置するなどの工夫もしました。学生たちには、オープンな空間ではかの学部生の活動にも刺激を受けながら、自由に学びを楽しんで欲しいですね。

